

シグマ研究委員会
46年度第2回幹事会(拡大)議事録

日時 昭和46年4月21日 10:00~15:30

場所 本本部第3会議室

出席者 百田, 森田, 桂木, 中島, 立花, 飯島, 塚田, 斉藤, 五十嵐, 西村
(以上10名)

1. BNLとの国際協力に関する件(桂木)

NNCSOの組織, ENDF/B-2の作成体制, CSEWG, Task Force などについて, 帰朝報告があつた。

2. センタ構想について

前回の討議にもとづき, (1) 日本における核データセンタの機能について(森田案), (2) サービス業務について(研究室会議メモ)の資料が提出された。

(a) (1)について討議した結果, 同案の構想II:「原則としてRaw data は CCDNセンターのOriginal Data File に期待する。すなわちセンターは国内リクエストに応じてデータリクエストを外国センタに対して行い, 当センターとしてRaw dataの整理には関心を示さない。またEvaluation 作業その他はOriginalityを重視し, 国際的なセンタへの寄与を目標とする」に賛意が集まつた。(1)には外部ユーザーの要望事項も列挙してある。

これに関連して評価作業のやり方について次のような意見が出された:
自主開発するには, 全部の核種をみるべきであるが, ゼロから出発するのは無意味である。Task Force 的観点で考える。すなわち自分達の判断で全体をみて, 第1着手はENDF/B-IIをベースにして, その中でどの部分をやる必要があるかを検討する。

(b) (2)の研究室会議メモについて, 説明があつた。

データ処理用の要員2名を計画してユーザーの要望に応える案で, 現状で

できることを所内ではつきりさせておこうという立場をとつている。

これに対して、ユーザーは、第1に入荷したデータを早くみたい、早く知らせてくれという要望が強く出された。

3. 47年度概算要求について、

現状では、理想的にあるべきセンタの姿との間にギャップがある。これをはつきりさせてセンタ要求を提出する。

具体的には、所内で各研究室を含めて合理化案をつくる。センター業務を所内で分割し、または兼務で処理し、これを総括するところをもうける。

この場合、委員会としてはセンターという組織にはこだわらない。原研全体として期待するものが実行されればよい。現在の人員を活用し、それに増員して第1次案(～15人)に近くなるなら立派である。

4. 懸案事項

(1) センタの output として何がでてくるのか(タイムスケジュールも含めて)。

(2) 評価ずみデータファイルの方向として次のうちのどれを採用するか。

Ⅰ) Japanese Version

Ⅱ) ENDF/B-II (そのまま借用)

Ⅲ) Japanese ENDF (すべて固有のもの)

(3) 所内の合理化の問題

5. その他

(1) 4年報作成の件：各委員に担当を委頼する。

(2) CSEWGに対する nomination の件：
agreement に発展する用意があつた方がいい。
preliminary data test を行う可能性がある。
評価について全体をみるのに参考になる。

予算の裏づけが必要である。

委員長から理事長にこの件について要請することになつた。